

## 日本SOD研究会報

# 特集 丹羽療法 治療レポート

## 丹羽先生に 愛飲者の方からの質問

1. 胃の摘出とSOD
2. 皮膚の乾癬とマグネークリーム
3. 歯科医師からの疑問

発行元 日本SOD研究会 藤沢  
住所 〒154-0012  
東京都世田谷区  
駒沢 5-13-1-205  
TEL. 03-5787-3498  
<http://www.sod-jpn.org/sod>

今回の丹羽療法レポートは、愛飲者から寄せられた様々な質問、疑問のなかから丹羽先生にいくつかをお答えいただきました。

— SOD様作用食品の消化、吸収にとって、胃液の消化酵素が重要な役割を果たしていると思うのですが、胃がんで、胃を摘出した方の場合、どうなるのでしょうか。



「確かに、胃を全部摘出していても、SODの効果は腸だけで消化、吸収ということになるし、胃液の消

化酵素の助けもないので、その効果は半分から3分の1くらいになるね。」

— それを有効的に摂る方法はないのでしょうか

「全摘の場合はSODを通常の2倍くらい飲むことです。2分の1の摘出は大丈夫。胃液がちゃんと出るようになるから、術後しばらくは倍の量を飲んで、あとは普通でいい。胃液や唾液というのは、食物を活性型にするための大切な役割を担っている。SODは胃液や唾液の力が弱くても抗酸化作用を発揮するから、胃を全摘した人は多目に飲むことです」

— 次に、歯医者さんからなのですが、歯に金や銀の詰め物をしますが、これが活性酸素を誘発すると聞いたことがあるのですが、どうなんでしょうか

「それは関係ない。あるとしたら金属アレルギーくらいで、それも何万人にひとりくらいだから大丈夫」

— あと、これもSODの効果のことで、胃液と同じくらい重要な唾液の話で、唾液が少ないドライ

マウスの方の場合、SODの効果に影響はあるのでしょうか

「確かにドライマウスの場合も胃の摘出と同じように効果が少なくなるね。SODは水で流し込まないで必ず食物と同じように唾液で咀嚼してほしいと言っているのはそのため」

——この場合の対処方は

「唾液を作り、分泌する唾液腺は、自律神経の影響を受ける。たとえば、緊張した時や、不安を感じた時、怒りを感じたとき等には唾液の分泌量は減少する。また、年をとると、唾液腺の分泌機能も衰えていくから、乾燥しやすくなるね。女性の場合は、閉経に伴い、ホルモン等の関係でドライマウスになる。」

対処方は、やっぱりマグネー石でできたサンドバスに入るのがいちばん。なぜならサンドバスは体中の弱っているところを活発にするから。

今の医学は、叩くことはする。抗がん剤でかんを叩く。抗生物質でばい菌を叩く。ステロイドで熱

を抑える。抑える、叩くことはするけど、弱っているものを良くする力はないんだ。肺が硬くなる肺硬化症、肝臓が硬くなる肝硬変、といったものを上に上げるとは



できない。それができるのはSODとマグネー石のサンドバス。サンドバスはSODの効果を3倍にしてくれる。老化による腰痛、肩こり、膝の痛み、不眠、そういうのにも効く」

——流行の岩盤浴とは違うんですね  
よね

「まったく違う。あれは効かない。」

サウナと何も変わらない。サンドバスとは根本的に違うんだ。マグネー石のエネルギーを最大限に生かすために1300度の熱で溶かして円球にしてある。マグネー石のサンドバスに入っていれば骨髄が弱っていても白血病にもならない。白血病になると骨髄で血液が作れなくなるが、その力を強くして、血液が作れるようになるんだ」

——マグネー石のクリームがありましたが、これはどういった症状に効くのでしょうか

「マグネー石のクリームは石を1300度で粉碎して、1ミクロン以下の小さい粒子の粉にしたものを使用している。これは全身に塗ってもいいけれど、飲んでもいい。昔から漢方の薬で飲む石というのもあるくらいだから、飲むと元気になる。クリームのほうは、皮膚から毛細血管に入って、血流を良くする。と同時にシミ、色素沈着も流してくれる。SODと併用すれば完璧」

——尋常性乾癬などにもいいのでしょうか

「皮膚が柔らかい状態のアトピーにはSOD軟膏だが、皮膚が硬くなってしまうと尋常性乾癬にはマグネー石がかさぶたの中に入っていくかない。だから、マグネー石クリームはものすごく有効。尋常性乾癬というのは、皮膚表皮の角層というところにケラチノサイトという細胞があつて、このケラチノサイトが異常に増殖するために皮膚が分厚くなる。マグネー石クリームはこのケラチノサイトをものすごく抑えてくれるんだ」

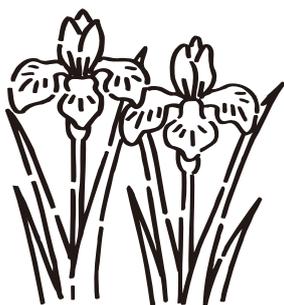
——その場合の食事の注意点などは？

「あのね、いつも言っているように、昭和20年頃、終戦直後頃までは、日本に尋常性乾癬なんていう病気はなかったんや。ところが戦後、日本人も肉、乳製品を食べ始めてこの病気が発生してきた。欧米の人たちは、昔から肉、乳製品の生活を常としてきているから、体がそのようにできている。しかし、

農耕民族の日本人は、終戦まで肉、乳製品などほとんど食べなかつた。穀物、豆、卵、魚介類の体だった。それが急に欧米型の食生活になつたものだからこの病気が増えた。気をつけることは、マグネーシウムを塗ることと、SODを飲むことと、日本食にすること」

という回答をいただきましたが、いかがでしょう。これからもみなさんからの質問を積極的に反映させていきたいと思っています。

お聞きしたいことがありましたら、ご一報ください。



◆丹羽先生診察ご希望の方は

御紹介、御予約いたします。

丹羽メディカル研究所

☎ 0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎ 03(5787)3498

まで、お電話ください。

**速報!**

関東地区でも放映へ!!

丹羽先生のドキュメンタリー番組

『4番バッターは75歳。』

現代の赤ひげ先生奮闘記』



健康産業新聞の最新号に、2月中旬に福島で放送された丹羽先生のドキュメンタリー番組『4番バッターは75歳。現代の赤ひげ先生奮闘記』に反響が多く寄せられ、好評だったという記事が載りました。その記事によると

「丹羽氏は、環境変化などによる活性酸素の増加ががんやアトピー、膠原病などの発症の一因になっていることに着目。SOD様作用食品などを活用した独自の丹羽療法を行っている。番組は、全国の診療所を飛び回る丹羽氏の医療への取り組み方とそのスタンスを中心に構成。患者と真摯かつ親身に向き合う診察風景、がんやアトピーの患者さんの声、統合医療を始めたきっかけ、そして治療を行う上での原動力である野球を楽しむ姿などが紹介された。番組には、インフォームドコンセントができていない医師が多い中、患者の立場に立ち、診療に奮闘する姿に感動した、いうコメントが寄せられるなど、視聴者にも好評だったとい

う。今後、他地区でも放映される予定だ」

という番組が、関東地区はTBSで5月から6月に放映される予定とか。詳しい日程は未定です。

撮影は冬の寒い時期に1ヶ月にも渡って行われました。土佐清水を始め、全国をくまなく回る先生のバイタリテイには番組スタッフも驚いたとか。さらに副作用のない丹羽療法のすばらしさに感銘を受け、すっかりファンに。先生の診察風景や野球をしているプライベートな姿は見る機会がほとんどないので、ぜひ観たいものです。他の地区でご覧になりたい方は、福島で放映された番組の録画DVDを特別にお分けします。ご希望の方は

「丹羽メディカル研究所」  
0120-731-175 まで  
お電話ください。



者一  
愛飲者  
SOD  
インタビュー

## アトピー、膠原病予備軍、メニエール病 働き盛りのご夫婦の危機を 救ったのはSOD

山田さんご夫妻

今回取材に応じてくださったのは、東京にお住まいの山田さんご一家。ご主人の仁さん（51歳）、奥様の緑さん（47歳）、一男一女、奥様のお父様、愛犬に囲まれ、平穏な日々を送っていたのですが、中年期に入ったあるときから、奥様もご主人も体調に異変が起り始めたのです。

ご主人の仁さんに最初の症状が出たのは6、7年前のこと。厄年を過ぎ、年齢的にも若い頃のように無理が利かなくなり、なにかと体の機能が支障がでてくるもの。仁さんの場合はそれが肌に現われたと言います。

「キッカケはどのようなことからでした？」  
仁さん（以下敬称略）「私は生まれつき、いくつかの薬物アレルギーがあつたんです。まず、赤チンなどの水銀系消毒薬に対するアレルギー。塗ると火ぶくれができるので、怪我をしたときは僕だけ黄色いアクリノール液を塗ってもらっていました。あと、風邪薬、頭痛薬などに入っているピリン系もダメなんです。だから薬関係には非常に気を使っていたんです。そんななか、最初に症状らしきものが出たのは、下着のゴムなどが肌に当たる部分からでした。パンツのゴムとか、シャツの襟ぐりとかが痒くなって掻いているうちにそのあたりだけ肌がじんましんのようになり赤く腫れていました」

「それでアトピーだと。」  
仁「いや、それでもまだアトピーだとは思わなかったんです。アトピーというのは子供がなるものという先入観があつたんでしょね」  
緑さん（以下敬称略）「だから洗剤の落とし方が悪くて洗剤アレルギーなのかもしれないと思って、すすぎをいつもの倍以上したり、粉末洗剤を液体に換えたり、ナチュラルなものにしたりしたんです」  
仁「それでも良くはならなくて、そのうち今度は靴下のゴムの部分だけ赤く腫れ始め、その範囲がどんどん広がっていき、ケロイド状になってしまつたんです」

「奥様はどうして？」  
緑「実は、私、10年ほど前に膠原病予備軍になったことがあるんです。そのときに知人がSODを勧めてくれて、半信半疑で一日9包を飲み始めたら、たったの1ヶ月で数値が下がっていたんです。おまけに体も疲れにくくなるし、風邪も引きにくくなつたんです。以来、私はもうSODの大ファンになり、包数は減らしてずっと飲み続けていたんです」  
「その後はずっと健康に？」  
緑「それが、仕事が忙しくてストレスが溜まり、メニエール病という三半規管がおかしくなる病気になつたんです。病院では、これは面倒な病気で良くなるまでには長い月日がかかりますよ、覚悟してがんばりましょうね、と言われ、落ち込んでいたのですが、その時期は、お医者さんからいただくイソバイドという苦い液体のお薬と、SODをいつもより多目の1日6包飲んだところ、これまたたったの2ヶ月で良くなつたんです。担

当のお医者さんはびっくりしてしまいましたね。そんなことがあったものですか、主人の症状を見て、丹羽療法はアトピーでも有名だし、新横浜に診療所があるから診ていただいたほうがいいと思っただけです。丹羽先生が出されたアトピーの本も読み、これは絶対にアトピーだから診ていただかないといけませんと思っただけです。というのは、主人はジャンクフードが大好きなんですよ(笑)。とくにハンバーガーやフライドポテト。もう年中食べているんです。丹羽先生の本には最も良くない食べ物の筆頭が上がっているものですよ(笑)——確かに(笑)。これまで何事もなかったことのほうが不思議だったんですね。新横浜での診察はいかがでした？

仁「先生のロングスピーチを横浜まで聞きに行きましたけど、先生が早口でついていけなくて、途中で寝ちゃったんです。ま、この人が聞いていてくれるからいいかと思っ(笑)」

緑「ひどいですよ(笑)。私は、一字一句聞き逃すまいと、懸命に聞かせていただきました。本当にためになるいいお話で、病気のメカニズムや活性酸素のこと、環境と人間の体の密接なつながりなど、目からウロコとはこのことでした」

仁「確かに、皮膚科や薬局に行っても、塗り薬をもらうだけで、それも良くはならないのだから、これではだめだと理屈では分かるのです。でも、それが薬に代わるものとしてSODを飲んで治すというのも、実のところ半信半疑でした。妻が真剣にのめりこむほど、自分では冷めていましたね。男はとかくあまのじゃくなんでしょうね(笑)。よくある健康商法というか、宗教っぽいものじゃないかと——診察ではどのような？」

仁「これはまぎれもなくアトピーですと言われ、特製の軟膏とSODを処方され、同時に食事の改善をするように言われました。まず、ファーストフードはだめ。あと、コーヒー、チョコレート、カ

レー、ラーメン、肉、乳製品、揚げ物、スナック菓子などは食べないように。すべて私の好きなものばかりでしたから、がっかりでした(笑)」

——食事は守れました？

仁「きちんと守れないようなら土佐清水病院に入院になる場合もある



りえると言われましたから、入院は嫌だと思い、最初のうちは守りましたね」

緑「食事と軟膏、SODのおかげでまず背中から良くなり始めました。確かに、飲み始めて2週間目

くらいに一度好転反応のようなものでかゆみが少し出たんですが、あとはどんどん良くなっていきました。背中一面かさぶたでじくじくしていたのがどんどんなくなつて3ヶ月くらいで診療所の軟膏をつけなくてもいいくらいになりました」

——さすがにここまで良くなると考え方も変わりました？

仁「いやー、ホントに驚きました。1ヶ月くらいでかゆみがなくなつたんですから、嬉しいですよ。と同時に、食事も3ヶ月目くらいからダメだといわれていたものを食べ始めたんですけど、大丈夫です。ただ、揚げ物を2人前とか食べる少し出ますが、食べ過ぎなければ大丈夫ということも分かりました。フライドポテトもSはいいけどLはダメとか(笑)」

緑「最後まで残っていた足首ケロイド状の痕もすっかりもとの肌に戻り、きれいになったんですよ。ですからうちではアレルギーの息子もSODを飲んでます。犬も体

調の悪いときに SOD を飲ませたら、すぐに良くなりました(笑)」「仁「おかげで健康や医療に対する意識が変わりましたね。西洋医学の化学薬品は病気に効くといっても、部分的なところに効くだけで、病気の根本を治しているわけではないんですよ。そして常に副作用の危険性ははらんでいる。人間の体は全て相乗的につながっているものなんですよ。私はタバコも吸うし、ジャンクフードなども好きですし、がん家系ですから、がんになる可能性は高いと思うんです。もしもがんになったとき、がんに効く薬を投与してもそれは遅いんですよ。発症する前に発症しないようにしなければいけない。それが免疫を高めることであり、そのために必要なものが丹羽先生が開発された SOD などにあるわけですよ。」

活性酸素のこともなんとなく知ってはいましたが、きちんと理解できてはいなかった。それが、理解できると、自然のものを自然のもの、自然のものを自然のものと退治するということが分かります。これは治療ではなく自然の摂理ですよ。日本古来からある自然のものだから、副作用はない、自分の体も痛めない。薬は即効性はあるけど怖いもの。SOD は安心してメリットがいっぱいある」

——ほんと、そのとおりですよ。仁「最初は土を飲んでるよう嫌だったんですが(笑)、今は飲まないと落ち着かない。習慣になっしまいましたね。甘いものを食べて口の中が甘ったるいときに SOD を飲むとちょうどよくなりまし(笑)、自分で納得がいくようになってからは両親を始め、知り合いにも勧めているんです」

緑「私も SOD のおかげでお医者さんに、あなたに出す薬はなにもないですよ、と言われて嬉しかったですね(笑)。SOD に出会わなかったら、私は今頃はステロイド剤でポロポロの体に、主人もアトピーを抱え、ストレスを抱え、家庭内は暗くなっていたでしょうね」

## SOD 様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しんでいる方が少しでも早くいい治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区  
駒沢 5-13-1-205

日本 SOD 研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

仁「確かに。夫婦の絆も丹羽療法と SOD のおかげで強くなったと思います。丹羽先生に感謝ですね」

.....

ご主人が夫婦の絆が強くなった、とおっしゃっている横で大きくうなずく奥様。その笑顔がひまわりのように明るくて素敵でした。

病気の危機を乗り越えたお二人。こうして明るく振り返ることができるのも今が健康だから。そして、大宅さんご夫婦の明るいお人柄のせいかもしれません。

ご主人からは

「インフルエンザのうがいは市販のうがい薬では効かないんですよ。あれは殺菌するだけで、風邪菌には効くけど、インフルエンザのウ

イルスには効かないんです。ウイ  
ルスに効くのは紅茶。紅茶でうが  
いをするといいた言われたので、  
アトピーでコーヒーがダメを言わ  
れたのを契機にレモンティーを飲  
むようにしたところ、確かに風邪  
をひかなくなりましたよ」

と経験談をご披露していただきま  
した。すっかり生薬療法が板につ  
いた感じで、こちらまで幸せのお  
すそ分けをいただき、嬉しくなり  
ました。ありがとうございます。



# SOD様作用食品とは● 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・ディスプレイゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをきっかけにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治療力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

## 丹羽療法を知る一冊

### ◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

丹羽博士の

正しいアトピーの知識」廣済堂

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた

医者的心」草思社

「安心の医療・本当の健康」

みき書房

「クスリで病気は治らない」

みき書房

「医は仁術なり」

至知出版

「丹羽療法 全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」

リヨン社

「SOD様作用食品の効果」

小冊子



あしたも元氣 (No.101)

生活習慣病を防ぐ食生活

生活習慣病の原因の主は食生活(食習慣)と言われている。その他運動習慣、喫煙習慣、飲酒習慣、睡眠習慣などの歪みによるものとされている。遺伝や環境の影響もあるのですが、生活習慣の改善によって第一次予防をすることが出来ます。  
生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症など)を予防するには、食生活!

1日3食バランスよく!が基本です。

体が必要とするエネルギー量

生活習慣病を防ぎ、健康を維持するためには、自分の体に見合ったエネルギー量を摂取することが重要です。

エネルギーの過剰摂取は肥満になり、そこから高血圧や高脂血症、糖尿病、痛風、脂肪肝、関節痛などを引き起こし、さらに動脈硬化から狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などの要因になるといわれています。

1日に必要なエネルギーは年齢・性別・身体活動量などによって決まっています。

成人が1日に必要なエネルギー

標準体重  $25 \sim 30 \text{ kcal}$

標準体重  $\times 25 \sim 30 \text{ kcal}$

生活習慣病を予防する食事ポイント

1日3食!

欠食をすると1回に食べる食事の量が増えてしまい、カロリーオーバーになります。つまりまとめ食いは肥満につながるということです。また、食事と食事の時間が長いといわゆる飢餓状態となり、食べた時に消費しないで内臓に蓄えておく現象が起こり、太りやすくなります。

主食は適量に、副食は1〜2皿/1食!

主食とは、米や小麦など穀類を原材料としたもので、日本人は1日のエネルギーの約半分を主食から摂取していて、主成分が「でんぷん」なのでエネルギー源としてとても重要な役割をしています。

副食は、動物性タンパク質と植物性タンパク質をバランスよく摂取することが大切です。

肉・魚貝・卵は良質な動物性タンパク質を含む食品で、毎食摂取したいものですが、食べ過ぎてしまうと動物性脂肪の過剰摂取になります。

大豆・大豆製品は植物性タンパク質を多く含む食品で、リノール酸が多く、食物繊維、鉄分、カルシウムなども含まれますが、動物性食品に比べると吸収率はよくありません。

野菜は必ず!

野菜にはビタミン、ミネラルはもちろん食物繊維が多く含まれています。食物繊維は大腸ガンの予防やコレステロール低下作用、糖尿病予防、便秘予防や改善によく栄養素です。

また、野菜自体にはカロリーが低いので、エネルギーの過剰摂取を防ぐことができます。

野菜調理が面倒なら...!

●生で食べる ●カット野菜を利用する ●汁物(味噌汁やスープ)に具たくさん ●まとめて茹でておく

塩分控えめ!

汁物や漬物は毎食ごとに食べるのではなく、1日1〜2回にしましょう。

食塩は塩化ナトリウム(NaCl)でナトリウムと塩素の化合物ですが、ナトリウムの過剰摂取は高血圧を引き起こし、腎臓病や脳梗塞、狭心症などの危険因子となります。

減塩のためには...

●調理は薄味で ●レモンや柚子などの柑橘類、みょうがや生姜などの香味野菜、コンショウや辛子などの香辛料、酢の酸味などを利用する ●加工品(ハムやソーセージ、魚の干物、練り製品など)は塩分が高いので控える

果物は1日1品!

果物は約90%が水分で、その他の主成分が糖質、食物繊維、ビタミンC、カリウムなどが含まれています。

牛乳・乳製品も必ず!

牛乳・乳製品は多くの栄養素が含まれていて、バランスがとれています。特にカルシウム豊富で、体内での吸収率も高いのです。

嗜好品はルールを守る!

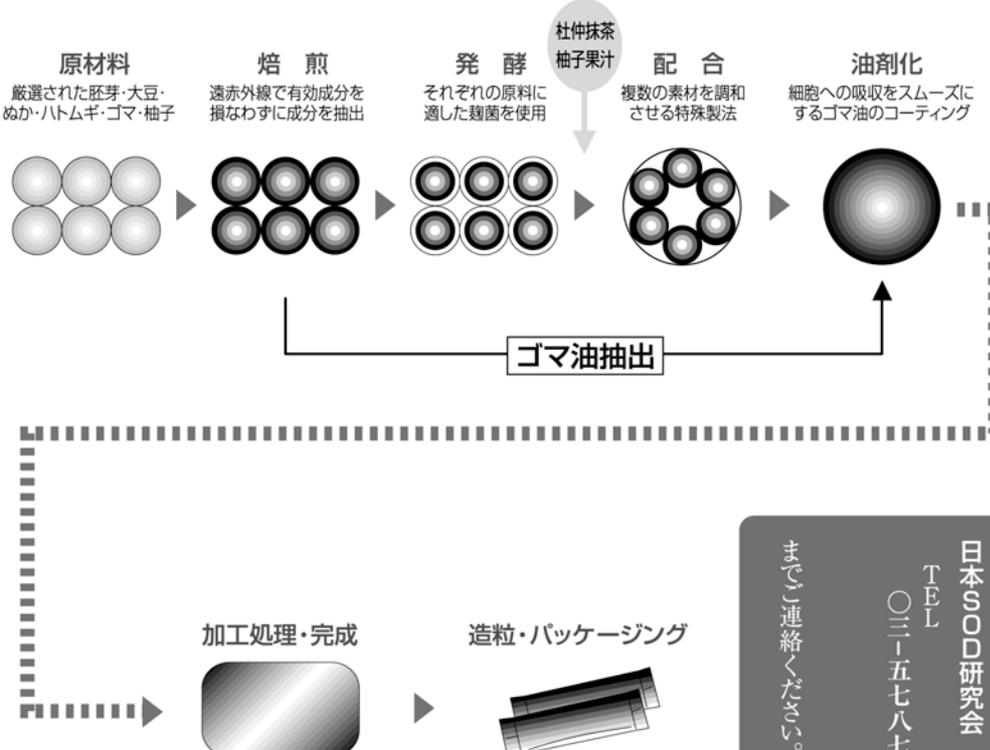
甘い物、アルコールの過剰摂取により生活の歪みは少なくありません。これらは体内で中性脂肪になりやすく、肥満や高脂血症の原因になります。

例えばコーヒーに入れる砂糖は少なめに、甘いお菓子は1日1回、アルコールならビールは1日1本を週3回など、ルールを決めて守っていくことで食生活を見直すことができます。

【栄養士 高橋広海】

SOD

様作用食品



バックナンバーについて  
日本SOD研究会では、これまで発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。  
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、  
日本SOD研究会  
TEL  
〇三二五七八七―三四九八  
までご連絡ください。